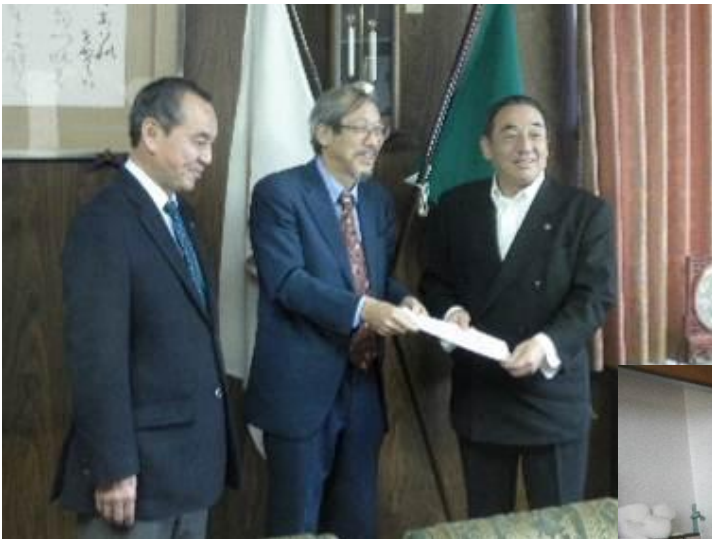


酒蔵通り景観条例制定の要望書提出

日 時	平成 24 年 12 月 13 日（木）午前
提 出 先	藏田義雄 東広島市長および坂本一彦 東広島市議会議長
提 出 者	前垣壽男 理事および中越信和 運営委員長
要望書名	西条・酒蔵通り及び周辺地区の文化的な資産や景観を保全するための西条景観条例の作成等の要望
要望内容	(1) 西条・酒蔵通り及び周辺地区の文化的な資産や景観を保全するための景観条例の作成 <ul style="list-style-type: none">● エリアの設定と景観づくりの方針 (例 酒蔵通り地区、西条駅北側地区、龍王山麓地区等)● 建築物、屋外看板等についてのガイドライン (例 建築物の高さ：酒蔵の煙突の高さ以下、色彩、素材等) (2) 文化歴史的資産の積極的な保全・再生 <ul style="list-style-type: none">● 酒蔵、煙突、古民家・町家等文化歴史的な建築物や資産等の積極的な保全と再生 (3) 地下水条例の作成 <ul style="list-style-type: none">● 世界や日本に誇る良質な水資産としての西条の地下水の保全に関する条例の作成

要望書提出の様子



藏田市長へ提出



坂本議長へ提出

酒蔵通りに景観条例を 東広島市の団体、市に要望書

東広島市の酒造会社などでつくる環境保護団体「西条・山と水の環境機構」（石井泰行理事長）は13日、JR西条駅前の酒蔵通り一帯の景観を守るため、蔵田義雄市長に条例制定を求める要望書を提出した。

要望書は「ガイドラインがないため、高いビルやマンションが建ち始めている」などと指摘。建築物の高さ制限などの指針作りや、酒蔵や煙突、古民家の保全と再生、酒の仕込みに使う地下水を保全する条例の必要性を強調している。

西条酒造協会理事長でもある同機構の前垣寿男理事と、広島大学院国際協力研究科教授の中越信和運営委員長が市役所を訪れた。

条例制定について蔵田市長は「住民の合意形成が必要。手続きを踏まないと難しい部分がある」と慎重な姿勢を示した。

酒蔵通りは、酒造8社が集まる観光スポット。赤れんが煙突が13本、酒蔵など関連の建物が41棟ある。

（境信重）

■関係記事

平成 24 年 6 月 6 日 中国新聞

酒蔵地区「魅力の景観」

活性化調査議会に報告

東広島市

東広島市が東映（東京）に委託していた酒蔵地区の活性化調査の報告書がまとまり、市は5日の市議会市民経済委員会で報告した。

JR西条駅周辺の酒蔵が集まる景観を「どこにもまねできない魅力の軸となる」と高く評価し、保全の必要性を強調。住民の意識を高めるセミナーの開催などを提言している。

酒造関係者たちからの聞き取りや現地調査で地域の歴史や現状を調べ、市外の人の認知度や関心も調べた。

報告書は、同地区を観光地とすることで活性化できると指摘。「情報発信が効果的に行われていない」「景観保存や活用に向けた具体的行動がない」などと課題を列挙した。

魅力づくりの施策として、地区全体をステージに見立てた時代劇や、菓子などの名物づくりを提案している。

委員会で石丸敏和産業部長は「提案された中で可能なものから取り組み、活性化に努めたい」と話した。市は昨年5月、890万円で同社に調査を委託していた。

（山田祐）

オピニオン

補修は酒造会社頼み

高層建物の規制なし



景観保存の方向性が見えない東広島市の酒蔵通り。煙突や蔵が立ち並ぶ

市教委によると、一帯には酒造8社が集まる。明治から昭和にかけてできた赤れんがの煙突15本、酒蔵は江戸時代の建築も含め45棟ある。煙突はまきや石灰で酒米を蒸した時代の名残で、ボイラーに役目を譲り、1本を除き使われていない。建物の補修費は全て酒造会社の持ち出しだ。清酒の販売が伸び悩む中、経営にかかる補修費の負担は重く、美観と広告塔を守る各社の気概だけが頼りだ。一帯にはマンションも次々に建つが、建物の高さ制限はない。西条酒造協会の前垣寿男理事長(66)は「このままでは古い建物が失われ酒蔵通りと呼べなくなる。維持費の補助と保全のための法規制が要る」と訴える。

東広島市の酒蔵通り

風情醸す景観どう守る

酒どころ東広島市の観光名所、西条地区の酒蔵通りで景観保全が進まない。「酒蔵の集積が織りなす全国に類を見ない景観」と専門家は高く評価するが、老朽化が目立つれんがの煙突や蔵の維持は酒造会社頼みで、町家も含む町並みを守る制度もない。市は保存の具体策を打ち出す時期に来ている。(境重)



市の保全計画 待ったなし



クリック
酒蔵通り 旧西国街道沿いに広がり、酒蔵や町家などが集まる。通りと呼んでいるが地域一帯を指し、範囲は曖昧で明確な指定はない。10月の酒まつりは20万人以上の観光客でにぎわう。JR西条駅南東のエリアは、昨年度の国土交通省の手づくり郷土(まち)賞の大賞に選ばれた。

市教委によると、一帯には酒造8社が集まる。明治から昭和にかけてできた赤れんがの煙突15本、酒蔵は江戸時代の建築も含め45棟ある。煙突はまきや石灰で酒米を蒸した時代の名残で、ボイラーに役目を譲り、1本を除き使われていない。建物の補修費は全て酒造会社の持ち出しだ。清酒の販売が伸び悩む中、経営にかかる補修費の負担は重く、美観と広告塔を守る各社の気概だけが頼りだ。一帯にはマンションも次々に建つが、建物の高さ制限はない。西条酒造協会の前垣寿男理事長(66)は「このままでは古い建物が失われ酒蔵通りと呼べなくなる。維持費の補助と保全のための法規制が要る」と訴える。

ルールがないため市の対応もろくばくだ。ある酒造会社は都市部の都市計画課が「古い町並みを残したい」と伝える一方で、同じ部の建築指導課は「建物が危ない」との声があるが建て替えは難しいですとねと言いつつ始末。この会社の役員は「市内部のコンセンサスはどうなっているのかと憤る。分布などは調査 市は、補修費助成が見込める重要伝統的建造物群保存地区などの制度利用を見据え、昨年度は建物の分布調査を実施し、本年度は29、31日に外観を調べる。これとは別に、市教委も10年前から酒造関係施設の個別調査を広島大と進めている。29日からの調査について、市が説明した15日の酒蔵地区まちづくり協議会。住民や酒造関係者から「調査だけで終わっても仕方ない」「保存の計画を示せ」と注文が付いた。保全策が具体化しないのは、市が道筋を示せないのに加え、地元合意の壁もある。同協議会は2005年、景観を守るためJR西条駅前の土地区画整理事業地区を除き、6階建て以上の建設禁止などを案としてまとめた。ところが、説明会の参加者が少なく住民合意を得られなかった。価値の認識が鍵 歴史的な建物を守る国の制度を利用する場合も、住民合意が前提となる。市は、本年度中の策定を目指す中心市街地活性化基本計画で景観保全の方向性を示すというが、酒蔵通りの現状を考えると悠長に構えてはいられない。酒蔵通りの保全計画を早急にまとめ、住民を合意に導く必要がある。

酒蔵通りは西条駅前の一等地。土地や建物活用の制約になるなら受け入れ難いという所有者の思いも絡む。市は「まず酒蔵通りの価値を地域の人が認識してもらうことが重要」と来月、シンポジウムを開く。広島大大学院国際協力研究科の中越信和教授(環境計画学)は「市は景観を守る方針を示し、住民の協議をリードしないと。条例を定め高層の建物は別の地区に誘導することも必要」と提言する。市は、本年度中の策定を目指す中心市街地活性化基本計画で景観保全の方向性を示すというが、酒蔵通りの現状を考えると悠長に構えてはいられない。酒蔵通りの保全計画を早急にまとめ、住民を合意に導く必要がある。

東広島市は29日、同市のJR西条駅南にある酒蔵通り一帯で、酒蔵や町家などの建築物の構造や分布の調査を始めた。情緒豊かな同地区を活用する観光振興事業の一環で、建物の補修費への国庫補助がある重要伝統的建造物群保存地区への指定など、国の制度利用を目指す。

東広島市の酒蔵通り

建築や都市計画を専門とする県立広島大や兵庫県立大の研究者や学生たち計16人が3班に分かれ、約3平方メートルを調査。歴史的な建物の間口や軒高などを測った。外壁の材質や屋根の形状など外観の特徴も確かめ、写真撮影した。石垣や灯籠などの工作物や町

建物の構造や分布調査 保存地区指定へ市

並みも写真に収め、特徴や大きさを記録した。31日までに計約220カ所を調べる。来年3月末までに報告書をまとめ、保存計画案作りなどに生かす。(安道啓子)



酒蔵通りの町並みを調査する学生たち

築80年の酒蔵 苦渋の解体

東広島市の酒蔵 維持管理負担重く 賀茂鶴酒造 解体

東広島市のJR西条駅南、酒蔵地区東端にある賀茂鶴酒造吉富蔵の解体工事が進んでいる。築約80年の蔵は酒造りをやめて約20年が経過。維持管理費の負担も重く、解体が決まった。市は酒蔵やれんが煙突の景観を生かした観光振興を探るが、保存策は間に合わなかった。(小笠喜徳)

(小笠喜徳)



解体工事が始まった賀茂鶴酒造の吉富蔵

蔵は41棟、赤れんがの煙突は13本になる。市は国の制度を活用した保存策を検討しているが、民間企業に対する公的支援や建て替え制限への異論もあつて進展していない。市商業観光課の国広政和課長は「市を代表する観光資源であり解体はショックだ。蔵や煙突の老朽化は待たなしの状態。対策を急ぎたい」としている。

同酒造によると、古き24坪の赤れんがの煙突が2本ある。93年に酒造りをやめてからは、確定申告の会場や10月の酒まつり時のイベント会場などに使ってきた。来年1月中旬までに解体を終え、更地になる。同地区の酒蔵があり、全て木造2階建て、延べ床面積は計約6千平方メートル。高

東広島市 日 毎 入 校 受 付 082-425-1110

同酒造によると、古き24坪の赤れんがの煙突が2本ある。93年に酒造りをやめてからは、確定申告の会場や10月の酒まつり時のイベント会場などに使ってきた。来年1月中旬までに解体を終え、更地になる。同地区の酒蔵があり、全て木造2階建て、延べ床面積は計約6千平方メートル。高

西条駅南一帯酒蔵生かせ

酒造会社が集まる東広島市のJR西条駅南一帯のまちづくりを考えるシンポジウムが28日夜、同市西条西本町のアザレアホールであった。酒蔵や町家など歴史的建物や景観をいかに活用するかがテーマ。約200人が先進地の取り組みや識者の提言に耳を傾けた。

福島県喜多方市の酒造会社の代表たち2人が「わが町のまちづくり」と題して講演。酒蔵をイベント会場に利用したり、取り壊す予定の銭湯を市が買い取って保存したりした事例を紹介。古



パネルディスカッション
「酒蔵通りの歴史的まち並み景観を
活かしたまちづくり」
歴史的建物や景観を生かした
まちづくりをどう進めるか意
見交換するパネリストたち

東広島でシンポ「仕込水」活用など提案

い建物を地域資源と捉え、住民の交流や観光客誘致に役立てているとした。

続くパネル討議では4人が意見を述べた。西条酒造協会の前垣寿男理事長は「市民一人一人がこんな町にしたいというイメージを持つ必要がある」と呼び掛けた。

他のパネリストからも「町並みだけでなく酒蔵が市民に提供している仕込水も生かすべき」など具体的な提案があった。

シンポは東広島市主催。市は西条駅南一帯の景観保全に向け、東映(東京)に酒蔵地区の建物調査を委託するなど取り組みを強めている。

(安道啓子)



■参考資料

参考 1 『東広島市の景観まちづくりに関するアンケート調査報告書』の要点

広島大学では、平成 21 年度の地域貢献研究のひとつとして「東広島市における景観まちづくりのための基礎的調査と方策の提案」を行った。ここでは、景観保全条例制定の申し入れに関連する参考資料として、本調査において明らかになったデータの要点を示す。なお、本調査は、岡橋秀典を代表者とし、中坪孝之・浅野敏久を共同研究者として行われた。本要点をまとめたのは浅野敏久であり、このまとめに関する責任は浅野にある。

東広島市の景観まちづくりに関するアンケート調査

調査実施者：岡橋秀典（研究組織：岡橋秀典・浅野敏久・中坪孝之）

調査方法：東広島市全域を対象にした WEB アンケート調査（調査委託先：(株)インタージ）

実施期間：2009 年 8 月 20 日～8 月 24 日

回収結果：回収数 668 人（有効回答 649 人）

回答者属性：年齢（20 代 28.4%，30 代 32.8%，40 代 25.9%，50 代 9.9%，60 歳以上 3.1%）
性別（男性 50.1%，女性 49.9%）

地域別（西条 38.4%，八本松 13.7%，志和 2.0%，高屋 14.8%，黒瀬 11.2%，福富 0.2%，豊栄 1.4%，河内 2.5%，安芸津 2.0%）

調査結果（抜粋）：

- 身の回りの景観に関心があるという回答は 80%以上である。
- 景観づくりに関心があると答えた人は約 70%に及ぶ。
- 東広島市の「好きな景観」のトップは、「酒蔵のある旧山陽道沿いの景色」で 55.2%の人が選んでいる。
- 「大切にしたい後世に残したい景観」のトップも「酒蔵のある旧山陽道沿いの景色」で 63.8%の人が選んでいる。
- 行政の果たす役割として、「市独自の条例等により具体的な規制・誘導を行う」を支持する人は 65%であった。

注：景観条例を支持する割合について、報告書では文章にはこう書いてあるものの、掲載したグラフに不備があった。そのため、岡橋秀典（2010）「東広島市における市民の景観意識と景観づくりへの課題」（広島大学総合博物館研究報告，2，19-33）のデータで確認し正しい結果を記した。

要点：回答した東広島市民の多くは、身の回りの景観に関心があり、景観づくりにも関心を持っている。東広島市を代表する景観として「酒蔵のある旧山陽道沿いの景色」を 6 割前後の人が選択し、他の景観要素を大きく引き離す結果となった。行政にはいろいろな景観施策を期待しているが、景観条例制定を支持する人も 65%と高い割合になった。

参考2『東広島市の観光・レクリエーション環境に関するアンケート調査報告書』の要点

広島大学では、平成17年度の地域貢献研究のひとつとして「合併後の東広島市がめざすべき観光振興のありかた検討に向けた基礎的な調査と方策の検討」を行った。ここでは、景観保全条例制定の申し入れに関連する参考資料として、本調査において、東広島の景観に関する市民意識として明らかになったデータの要点を示す。なお、本調査は、浅野敏久を代表者とし、岡橋秀典・山崎博史・フंक=カロリンを共同研究者として行われた。本要点をまとめたのは浅野である。

東広島市の観光・レクリエーション環境に関するアンケート調査

調査実施者：浅野敏久（研究組織：浅野敏久，岡橋秀典，山崎博史，フंक=カロリン）

調査方法：東広島市全域を対象にした無作為抽出・郵送法によるアンケート調査

実施期間：2005年10月14日～10月31日

回収結果：配布数2,999通，回収802通（回収率26.7%）

回答者属性：年齢（10代4.1%，20代10.2%，30代12.3%，40代15.6%，50代19.5%，60代19.8%，70歳以上18.1%，無回答）

性別（男性43.3%，女性56.1%，無回答）

地域別（西条31.9%，八本松14.3%，志和6.1%，高屋18.2%，黒瀬13.2%，福富1.9%，豊栄2.0%，河内3.7%，安芸津8.5%，無回答）

調査結果（抜粋）：

- 東広島市の観光レクリエーションの魅力として「酒と酒造りの文化」と答えた人が69.3%と、2番目以降（30%台）を大きく引き離してトップであった。
- 東広島市観光のテーマ・シンボルになるものとして「酒」を選んだ人が68.7%であった。
- 東広島市の文化資源の活かし方として「史跡や文化財，町並みなど文化景観の保全」を選んだ人は61.7%であった。
- 「酒」に活かし方について尋ねたところ、「酒蔵地区の町並み保全」が56.5%に達し、2番目以降の「酒まつりの拡充」（36.4%）や「酒にちなんだ特産品の開発」（34.7%）を大きく引き離れた。

要点：この調査は直接的に景観について調べた調査ではなかったが、市民の酒や酒蔵地区に対する意識の一端を知る結果が得られた。回答した東広島市民の約7割は、東広島の個性を「酒」や「酒づくり」にあると評価している。東広島市の文化資源の活かし方として「文化景観の保全」を約6割の人が支持している。まちづくりへの「酒」の活かし方としても、町並み保全を支持する人がもっとも多く、町並み保全・景観保全は東広島市の地域づくりの大前提と位置づけるべきことを示唆している。